Certified Non-Profit Organization（認定特定非営利活動法人）
Buddha Foundation（ブッダ基金）

ブッダ基金　会報
令和３年９月号

サティハル

奉仕が私たちの仕事です

2015 年 5 月ネパール地震被災直後

コロナ禍の学校再開 衛生用品緊急支援

コロナ禍の学校教育緊急支援

ｽﾜﾔﾝﾌﾞﾅｰﾄ寺院、ｶﾄﾏﾝｽﾞ

エベレスト山脈　フィッシュテイル山

BCML 読書キャンプ

女性の自立支援・クッキー製作

クッキーの試作

女子生徒の奨学金支援

【令和３年９月号　もくじ】

■　ネパールにおける私の社会福祉活動/……ﾋﾏﾗﾔ・ﾌﾞｯﾀﾞ基金理事長　テジ・クマール・グルン①
■　私のｻﾃｨﾊﾙ（友）, 山口医師, ﾍﾗﾛ, ﾌﾞｯﾀﾞ基金, ﾛｰﾀﾘｰ/……ﾆｲﾐ・ﾌﾞｯﾀﾞ基金共同代表　ﾛｯｼｭ･ｸﾞﾙﾝ②
■　ブッダ基金との出会いとクッキープロジェクト/……シャリカ・グルン③

特定非営利活動法人ブッダ基金
〒432-8021　浜松市中区佐鳴台３丁目 52 番 22 号 TEL&FAX 053-415-8144
E-mail　buddhafoundation1991@gmail.com
URL　https://www.buddha-f.org/

ネパールにおける私の社会福祉活動

テジ・クマール・グルン
ヒマラヤ・ブッダ基金　理事長

私は 17 年間、ネパールの恵まれない人々を元気づけるために社会福祉活動に携わってきました。
私はネパールの片田舎で育ちました。その後、街に引っ越し、より良い生活を求めて、幾つもの人生の困難を乗り越え奮闘しました。一生懸命働いて、私は今となっては社会でそれなりの地位を築くことができました。
しかし、恵まれない人々や社会的に虐げられている人々の事が一時も頭の片隅から離れることはありませんでした。朝から晩まで日々のパンを求めて、破れた服を着た田舎の人々が懸命に生きようと苦しんでいる光景がいつも頭に浮かびました。彼らは基本的な医療すら受けることができず、日々の生活に明け暮れていました。また、子供たちは質の高い教育を受ける機会がありませんでした。私は彼らのために何かをしようと思いました。
あちこちで小さな貢献をし始めましたが、影響は目に見えませんでした。私は目に見える変化を起こすためには個人ではなく組織的な活動の必要性に気づきました。何人かの友人に非営利の社会組織を結成し、社会の変革のために働くことを提案したのは 2005 年のことでした。
社会活動の過程で、日本の当時ブッダ基金会長の山口貴司先生と連絡を取りました。私たちは意見を共有し、共通のビジョンを持っており、一緒に仕事ができると感じました。山口先生からポカラの地域病院運営で直面していた問題について伺い、その話は私の心に響きました。私たちは彼らの問題を解決するために協力することにしました。ブッダ基金が法廷で勝利を勝ち取ったのは 7 年間の努力の結果でした。ネパール政府の保健大臣によって正式にブッダ基金に返還された医療機器と現金はネパールの政府病院に寄付されました。
2005 年以来、ブッダ基金とネパールのヒマラヤ・ブッダ基金は、ネパール遠隔地の村で合同の無料医療キャンプを運営してきました。多くの日本人医師や看護師が多大な貢献をしてくれました。ネパールの医師と看護師も日本の医師とボランティアの貢献に触発されました。ネパール人医師や看護師も無料医療ヘルスキャンプに喜んで貢献する動機付けとなりました。

無料医療キャンプの影響は多大で、遠隔地の村から来た延べ 13193 人近くの患者が、13 の無料医療キャンプを通じて健康診断、薬、病理学的サービスを受けました。これらの医療キャンプは、多くの患者をさらなる合併症から救うのに役立ちました。複雑な症例でさえ診断され、さらなる治療のために病院に紹介されました。したがって、私たちの医療キャンプは多くの命を救うのに役立ちました。多くの高齢者は、我々の支援により白内障手術を受け、再びはっきり見えるようになり、とても興奮していました。また、山口先生の援助により、1 人の心臓病患者が首都カトマンズの病院で手術を受けました。他にも有名な病院で 2 人の女子校生が眼科手術や複雑な唇の手術を受けました。
学校の状況や子ども達の様子は常にヒマラヤ・ブッダ基金のメンバーや日本の派遣団の目に留まりました。地域が運営する学校や、政府が運営する学校の状況は 15 年前にはとても満足のいくものではありませんでした。
屋根の水漏れ、窓の破損、机や椅子の損傷など、老朽化した建物や設備は、公立学校の特徴でした。ノートや筆記用具も持たず、裸足で破れた制服を着た生徒たちの姿には心を打たれました。更には、識字レベルが非常に低かった。そこで、児童の識字能力と読解力を高めるために、2012 年にヒマラヤ・ブッダ基金と日本のブッダ基金が移動図書館のアイデアを思いついたのです。
ブッダ子ども移動図書館の設立に伴い、カスキ地区の 110 校に蔵書を共有しました。今までの受益者の累計

は延べ7万人近くになります。
このプログラムは、学校で開催される読書キャンプと相まって、本を読み解くことを習慣化し、学校での読解力と識字レベルの向上に大きく貢献しています。ブッダ子ども移動図書館が主催する読書キャンプには延べ2万人近くの生徒が参加しており、このプログラムは基礎学校（小学校）の生徒の間で非常に人気があります。
ノートや筆記用具を購入できない子ども達には、教材配布プログラムで支援しました。6285人以上の生徒が29,389冊のノートと7,209本の筆記用具の支援を受けており、これは学校教育の質の維持にも役立っています。
日本とオーストラリアのボランティアの中には、学習机と椅子やスポーツ用品で私たちのプログラムに参加する学校を支援してくれた人もいます。
2015年のネパール大地震災害時には、ノートや筆記具をリュックに入れ2台のトラックに積み、バルパック地区の最も被害が甚大な地域の1666人の子ども達に1年間分の学用品を配布しました。地震ですべてを失った子どもたちの顔に笑顔が戻った瞬間でした。このプログラムは、日本のブッダ基金によって支援されました。

浜松中ロータリークラブには、我々の社会福祉活動に賛同いただき、ギャノダヤ小学校の校舎建設基金にNRs 1,000,000（100万ルピー≒約100万円）を寄付して下さいました。この学校は2015年8月のモンスーン洪水ですべての建物と財産を失いました。新校舎竣工時にはブッダ基金会長の加藤氏にお立合いいただきました。
昨年からは世界中で今なお続くコロナ対策の学校支援を行ってきました。日本のブッダ基金とネパールのヒマラヤ・ブッダ基金は、COVIDの蔓延を抑制するためにネパール政府が初めてロックダウン（都市封鎖）を実施したことにより、子ども達の精神状態を非常に心配していました。

学生が教科書を読んで理解できるよう、また勉強への動機付けのために、我々は毎日の学習計画と宿題のガイドラインを備えた自己学習型の教材配布プログラムに資金を提供しました。このプログラムは、ヒマラヤ・ブッダ基金とポカラ市教育委員会によって効率的に実行されました。
7300人の生徒が、自己学習に役立つ宿題マニュアルなどの教材配布の恩恵を受けました。
9か月のロックダウン（都市封鎖）後に再開を試みる学校を支援するため、ヒマラヤ・ブッダ基金はマスク、消毒剤、手洗い石鹸の配布を支援しました。ポカラとその周辺地域の48校に、合計25650枚のマスク、70リットルの消毒剤、450個の石鹸を提供しました。このプログラムは8478人の学生を支援し、子ども達のコロナ感染を少しでも防ぎ、学校生活の安心・安全を保つのに役立ちました。
コロナ禍の状況では、生徒はオンライン（インターネット）で学習活動を行っています。私たちの試みは、政府の無償教育政策を補完するためにノートや筆記用具も満足に購入することができない子ども達のニーズを満たすことです。また、コロナ感染から彼ら・彼女らを保護するためのマスク、消毒剤、石鹸など今後は生徒が学校に物理的に通うための重要なサポートになります。更には、コロナの蔓延を防ぐため、学校でのまん延防止意識向上プログラムも必要と感じています。ネパールのへき地にいる貧しい子ども達を助けるために、日本人だけでなく他の国の人々にも是非ご支援をお願いしたいと思います。
支援の分野は多岐にわたります。学生自身への支援、学費、教材、制服、スポーツ用品の支援から、学校への物理的な施設の改善支援までさまざまです。
最後に、山口先生、鈴木先生、加藤さんが会長を務めて下さった間、私のブッダ基金との仕事の経験はいつも楽しく実り多いものでした。この関係が今後、更に強固で実りあるものになることを願っています。

私の友人、山口医師、ヘラロアカデミー、ブッダ基金、そしてロータリークラブ

ロッシュ・グルン
ニイミ・ブッダ基金共同代表
元ヘラロ・アカデミー代表
アンナプルナ・ロータリー・クラブ元ｶﾞﾊﾞﾅｰ

私の村は先祖代々、ネパール西部の都市、ポカラ市の近くにあります。約 60 年前、両親は子供の勉強のためにポカラ市に移住し、私はポカラで生まれました。当時、ポカラは小さな村でしたが、今では大都市になっています。毎年多くの観光客が小さなペワ湖を訪れ、ヒマラヤ山脈を見に来ます。約 115 年前にチベットを旅した僧侶・河口慧海は『チベット旅行記』で、ヒマラヤ山脈の景色とポカラを世界で最も美しい都市と述べました。私は子供時代から、社会活動、ビジネス、その他の仕事をこの街で完成できたことを非常に恵まれていると感じています。

1.最初の仕事の経験：
私は物心ついて以来、できる限りネパールの困っている人を助けたいという考えのもと、多くの社会福祉活動を行ってきました。そのような事から、私は International Nepal Fellowship (INF) という健康（当時はハンセン病患者の治療など）や災害支援を行う非営利団体で約 6 年間働きました。当時のネパールでは、ハンセン病患者に対する理解が乏しく、そのような患者さんが健常者と同じように社会で生活することは困難でした。我々の団体は、ハンセン病も他の病気と同じであるという啓蒙活動を行い、何とか地元で生活できるよう尽力するも、なかなか社会的には受け入れられませんでした。さらに INF は、ハンセン病患者にトレーニングと仕事の機会を提供することを決定し、その任務は私に任されました。大変な業務でしたが、カトマンズやポカラなど、さまざまな場所の患者さんのニーズに応えることができました。上司から私が行った仕事の結果を褒められた時は大変嬉しかったことを思い出します。

2.日本へ渡航：
その後、私は結婚し、息子が生まれました。グルン族に生まれた男性のほぼ 9 割は、海外に働きに行くという慣習があります。私の場合も同様で、私は日本で働くことを選びました。日本には 9 年間住んでいました。当時、東京にグルン族の機関が設立され、3 年 3 か月事務局長を務めました。その後、ネパール機関も設立され、再び事務局長を務めました。このようにして私は社会的活動に携わるようになっていきました。日本にいる間、多くのネパール人の仕事を管理し、医療費を払えない人たちのために寄付を集め、在日ネパール人の個人的な問題や時には人々の死にも立ち会うなど人道的活動に携わってきました。

3.ヘラロ・アカデミー　ポカラ：
日本滞在中、私と同じように社会福祉活動の重要性について考えを同じくするポカラ出身の同郷の 21 名が非政府団体（NGO）ヘラロ・アカデミー ポカラを設立することを決意しました。NGO は、我々が帰国後ポカラ周辺の困窮者を支援する目的で設立し、私は初代代表になりました。“ヘラロ”はネパール語で誰かや何かの後を見るという意味です。昔、地方自治体は森林地帯からの密輸を防ぐために人を雇っていました。そしてそのような人々は“ヘラロ”と呼ばれていました。彼らの仕事は、森林の世話と保護でした。その言葉からインスピレーションを得ました。
我々のヘラロの名前は、地方自治体や政府、その他の国際 NGO と協力して活動を行ってきたことから、多くの人から認知されるようになりました。時を同じく

して、日本の心臓外科医である山口医師と彼が代表を務めていたブッダ基金との協働で、さまざまなプロジェクトを実施しました。山口先生の協力のもと、15 人の無医村僻地に住む患者にガンガラル心臓病院での手術のための財政支援を提供することができました。

4.ヘラロと山口先生の最初の患者さん：

ヘラロと山口先生が最初に支援した手術は、ヤムソワ・グルンさんでした。私と山口先生は手術の 15 年前に患者が住むシクル村を訪れました。患者の家族の状況と健康状態を調査するために、私たちはタクシーと徒歩で 10 時間かけて、ポカラ市から村に到着しました。その後、ヘラロは心臓保護基金を設立し、その利息によって困っている患者を支援しています。ヘラロは病院と協力して、困っている患者を特定し、主に心臓病を患っている患者の治療を支援しています。

5.ヘラロと廃棄物管理作業：

ヘラロのメンバーは皆、日本に長年滞在してたため、身の回りの環境をきれいに保つことが人々の環境に対する意識に影響することをよく認識しています。私がネパールに戻ったとき、ポカラの廃棄物管理は満足のいくものではありませんでした。そのため、ヘラロは地方自治体と協力して、廃棄物をどのように管理できるか、そして地元の人々自身が廃棄物を管理するために何ができるかを話し合いました。我々は地元の人々の廃棄物管理についての意識を高めるために様々な努力しました。その結果、多くの住民が廃棄物管理について真剣に考えるようになりました。

6.バガワティ学校・コーヒープロジェクト：

ネパールを訪問するたびに、山口先生は可能な限りあらゆる方面で支援することを意識していました。そのようなことから、先生がネパールを訪問された際、山間僻地の低カースト家庭の子ども達が通うバガワティ学校（地域が運営する）を訪問した。

地域住民が資金を出し合って運営する学校のため、常に資金不足で運営が厳しい事を知り、持続可能な学校運営のために裏山にコーヒーの木を植えることを提案。山口先生がコーヒーの木を植樹した、2009 年にプロジェクトが開始した。現在、プロジェクトは素晴らしい発展を遂げ、日本の UCC が 2019 年からこの豆を購入し国連が推奨する SDGs(持続可能な開発目標)に貢献しています。山口先生とブッダ基金に感謝し、ヘラロ・アカデミーが木々の手入れをしています。

7.ヘラロとブッダ基金：

ニイミ・ヘラロ奨学基金は、ヘラロとブッダ基金の協力により設立され、毎年 20 人の社会から取り残された貧しい女生徒を支援しています。このプログラムは 2018 年に開始されました。

8.ロータリーへの入会：

山口先生の提案で、私もロータリーの会員になりました。2006 年 2 月に設立されたアンナプルナ・ロータリークラブの 2013/14 年度ガバナーに就任しました。その後、2017/18 地区代表も務めました。ロータリーとして関わった社会貢献活動は約 25 万ドルに及び（約 2700 万円）ました。その内の一つに、近隣の女子生徒に看護教育の機会を与え、地域の村で看護師として働くための雇用に貢献しました。

また、私は SOS 学校（孤児や家庭崩壊により身寄りを失った子ども達が通う NGO が運営する子ども村の学校）で生まれながらにして障害を持った少女の教育を支援しています。更に、山間僻地への電力供給、村への衛生的な飲料水の供給、地震で被害を受けた学校の再建、山間僻地の学校図書館や無料医療キャンプの実施などは、私の社会貢献活動の一部です。ロータリーを通してネパールで初めて、献血車をネパール赤十字に寄贈することにも成功しました。日本、イギリス、カナダ、韓国、その他多くの国々のロータリークラブの同僚からのご支援に感謝します。

9. コロナ感染症：

コロナ感染症については最近では多くの事が分かってきています。私たちは感染の更なる蔓延を阻止するためにできる対策を行う必要があります。しかしながらネパールのような途上国では情報も、物資も入手するのが困難です。新規感染者を作らない予防策、そして患者を助けるために、韓国のロータリークラブの助けを借りて、酸素濃縮器、体温計、マスク、手袋、消毒剤などを 4 つの保健所に配布することができました。地域のコロナ感染者を救助できることを願っています。

最後に：

このように今まで色々な活動をしてきましたが、私はまだまだ社会に対して何か貢献したい気持ちでいます。いま私は二つの計画を考えています。一つは、ポカラ市から遠く離れた僻地の山村に医療を提供することです。貧しい人々や社会から取り残された人々が健康状態を改善するための医療機器、医師、看護師が不足しています。二つ目は、近年ポカラ市にはコンクリート造りの建物が増え、その結果、環境の悪化や汚染が増加しています。各家に少なくとも 2 本の植物を植え、道路沿いにはラクの木を街路樹として植えることにより、温暖化を緩和し、人々の環境への意識を高めたいと考えています。他の国際 NGO や地方自治体、政府とも協力して、ポカラ市を緑の都市にしたいと願っています。私と共にこれらのプロジェクトを推進してくれる協力者を広く募集しています。さあ、より良い社会の発展に向けて、共に働きましょう。一人は皆のために、皆は一人のために、を実行しようではありませんか。

ブッダ基金との出会い、そして女性支援事業

シャリカ・グルン

女性の自立支援事業
ネパール・リーダー

シャリカ・グルンです。女性の自立支援事業としてマドレーヌを作り始めたきっかけについて簡単にご説明したいと思います。

2 年ほど前、私はブッダ基金の人々に初めてお会いしました。ブッダ基金では、ネパールの田舎の女性にクッキーの作り方を教えるプログラムを開催していました。その際、クッキーの作り方を学ぶ機会がありました。作り方を学んだ後、しばらくの間、いろいろなお店に海外からの観光客に向けてお土産用のクッキーを販売してもらいました。

プログラムが始まってすぐに、私は数ヶ月間日本に行く機会があり、マドレーヌのレシピも学ぶ機会がありました。そこでブッダ基金事務局の山田さんに会い、マドレーヌの講習を受けました。ネパールらしい 5 つの味のマドレーヌの作り方を教えてもらいました。それらのフレーバーは、ネパール・マサラティー（ネパールのスパイス紅茶）味、ヒマラヤ・ピンク岩塩味、マカダミアナッツ味、ヒマラヤはちみつ味、ヤク・チーズ味です。

このような学びの機会を与えてくださったブッダ基金に心から感謝申し上げます。

ネパールに戻った後、私は僻地から街に来ている少数の女性にマドレーヌのレシピを教える機会を得ました。しばらくの間、私はクッキーとマドレーヌを作り、いくつかの店でそれらを販売してもらいました。クッキーもマドレーヌもとても好評で、素晴らしい評価をいただきました。

残念ながら、コロナの感染拡大のため、クッキーとマドレーヌを拡売することは叶いませんでした。

コロナの感染状況が終息次第、クッキーとマドレーヌの製造を開始し、より多くのお店に供給して、売り上げの拡大を目指したいと考えています。また、後々ベーカリー職人として働けるように、働きたいけど仕事が無い多くの女性にクッキーとマドレーヌの焼き方を教えていきたいと考えています。

ありがとうございました！

＜サティハル＞とは、ネパール語で「友達」という意味です。皆様との繋がりが深まることを願っています。

第 21～22 期の活動計画（2021 年 9 月現在）

ブッダ基金は次の 4 分野を柱に活動を進めています。
医療・教育・女性の自立・産業振興

■ブッダ子ども移動図書館（BCML）
僻地の学校で図書活動を通し識字教育を普及し、ネパールの将来の人材を育成する。

■眼科検診活動
識字教育の障害の眼病早期発見と治療を目指す。

■学校コーヒー園プロジェクト
学校運営資金と体験学習の両立による持続可能な教育を推進。

■ヒマラヤ・サブレ・プロジェクト
ネパール土産となる製品の開発・生産・販売をネパールの女性が主体となり貧困からの自立を支援。

■スポーツ振興プロジェクト
スポーツ活動を通し健全な子どもの育成を推進。

■その他（災害支援、医療人材育成活動等）
その時々に必要な支援を単発で機動的に実施。

役員及び事務局メンバー

2021 年 9 月現在

理事長： 加藤義一
名誉理事長： 山口貴司
理事：石垣 清、鬼頭秀行、鈴木一也、渥美喜重次、眞瀬悦邦、日下部 善昭、武山克彦
監事： 鈴木祐介、藤原孝行
事務局： 戸田純子、山田清美

【事務局・編集後記】

～お知らせ～
広報活動の一環としてインスタグラムを始めました。ホームページにも掲載しております。「いいね！」や「フォロー」をいただけますと幸いです。

BUDDHA_FOUNDATION_JAPAN

～編集後記～
まだまだコロナによるロックダウンが続くネパールですが、以前のように早く現地で活動できるように祈るばかりです。

ご寄付ありがとうございます
個人：菱田 明 様

ブッダ基金は、**認定 NPO 法人**です。

認定ＮＰＯ法人への寄附は、所得税と住民税の控除が受けられます！
個人の方の場合、所得税と住民税で、寄附金額の最大約 50% が税額から控除されます。（寄附される方の所得額によります。）
★「寄附金控除」を受けるには、確定申告を行う必要があります。寄附金受領書を「申告書に添付」、または「申告書提出の際に提示」が必要です。
「寄附金受領書」を紛失しないようご注意下さい。
ご不明な点がございましたら、事務局までご連絡ください。

日頃はブッダ基金の活動にご支援、ご協力いただき、ありがとうございます。今後も医療・教育・産業・女性の地位向上などの支援を継続し、更に支援の輪を広げていく所存であります。皆様の温かいご支援を引き続きお願いすると共に、この活動に参加していただける方のご勧誘をお願い申し上げます。

＜年会費＞

正会員	一口	12,000 円
個人賛助会	一口	6,000 円
団体賛助会員	一口	30,000 円

振込先①
ゆうちょ銀行　振込口座　口座番号：00890-7-104787
名　義　　特定非営利活動法人 ブッダ基金
※ 他の金融機関からお振込みいただく場合
ゆうちょ銀行　金融機関コード：9900　店番：089
預金種目：当座　　店名：０八九（ｾﾞﾛﾊﾁｷｭｳ店）
口座番号：0104787
名義：特定非営利活動法人 ブッダ基金

振込先②
静岡銀行　可美支店　普通　口座番号：0450295
名 義　特定非営利活動法人ブッダ基金
代表理事 加藤義一

※ 郵便局へのお振込みの際は、お振込用紙へお名前、ご住所の記載を、静岡銀行へお振込みの際は、お電話、FAX、またはメールにてお名前とご住所をお知らせください。寄附金受領書、領収書を発行させて頂きますので、ご協力をお願い致します。